

2015年 3月21日

未来への扉



高等特別支援学校 支援部 第66号

平成26年度を振り返って

ある小さな会社の社長をしている男が、占い師から「高級車を買おうと、いい事がありますよ」と言われたので、あちこちから借金までして、とてもいい車を買いました。それから一年、男が再び占い師のところへ来て、こう言いました。「あなたの言うとおりの高級車を買ったら、さんざんな目にあつた。ほかの会社の社長からは調子に乗るなと言われ、従業員には『給料も上げないくせに自分だけいい暮らしをしている』と言われ、あげくのはてには取引先にまでその評判が伝わり、最低の売り上げになった。」占い師はだまって聞いています。男は続けました。「今では、安い車に乗り、安い服を着て、会社を立ち上げたころの気持ちに戻って、一からやり直している。失いかけた信用も、戻ってきた。よく考えると、あの時もし車を買わなかったら、おれは初心を忘れたまま、会社の方向性を見失っていたところだった。あなたの占いは当たった。だからおれは、あなたに札を言いに来たんだ。」……占いの、当たり外れの話ではありません。自分の身に起きたことをどう解釈するか、そのちがいが成長のちがいにつながる、私はこの話を、そのように聞きました。べつに社長にはなりたくありませんが、この男の人のように考えられる人間になりたいと思って、過ごした一年でした。この一年の、めぐりあわせに感謝しています。ありがとうございました。

3年学年支援部 野村 聡



支援部だよりでは数回文章を書かせていただきました。何かの参考にさせていただけたなら幸いです。支援部だよりを配布すると、子供たちは声に出して読んだり、読み終わったあとに「読んだで！」と伝えてくれたり・・・私自身書くことに楽しみをもつことができました。支援は書物に書いてあるようにスムーズに行くことばかりではありません。その人に合うもの、合わないものがあると思います。それを学校にいる間に模索し、ベストな支援を探せたらいいですね。支援は教師だけでは成り立ちません。多くが保護者の方々のご理解・ご協力が必要になります。一人ではなく全体で支える。この1年で私が強く感じたことです。これからも一緒に考えていきましょう。ありがとうございました。

2学年支援部 藤本祥邦

1年生は入学して1年が過ぎようとしています。2年生はもうすぐ3年生です。本当に早いものですね。生徒達は日々の授業や行事で苦手なことにも挑戦し、「できた」という達成感を味わったり、自信をもつことができたのではないのでしょうか。4月から「お互いを認め合える」「切磋琢磨する」雰囲気を作り、更に成長してほしいと期待しています。周囲の大人は、生徒自身の力を信じ、背中を押したり励ましの言葉をかけながら、寄り添っていきたいですね。今年1年間、保護者の方々からもたくさんのお話を学ばせていただきました。ありがとうございました。

1学年支援部 山下 さとみ

うちの先生♪を担当させていただき6人の先生とお話を（取材？）をさせていただきました。短時間でしたがそれぞれ貴重なお話の時間を通してその方の物の見方や考え方などに触れることが出来、私自身は少し心もお近づきになれたような気がしています。読んで下さったみなさまには少しでもうちの先生方の魅力が伝わったでしょうか。先生も一人の人なのです。

人との付き合いはやはり会話が大切です。会話はキャッチボールと言いますが、相手の力に合わせて受けやすいところへボールを投げる・相手が投げたボールは大切に受け止める。会話がドッチボール（攻撃や対戦）になってはいけませんね。…この話はまたの機会にお話しできたらと思います。一年間ありがとうございました。

レポーター Yこと吉田直美

うちの先生♪の先生のイラストを描かせて頂いていました。

先生達の優しそうなお話、おもしろいお話、ちょっぴり大げさに描いて楽しんでいました。私がイラストを描くようになったのは、ここ3～4年の間です。それまでは全く絵は苦手でした。中高時代も美術の時間は苦手なモノをやらされてる感が強くて、苦しい教科でした。

ナントカの手習い(?)というか、大人になってからやったことが、それなりに形になりました。「美術は苦手」と自分に呪いをかけなくてもよかったのに、と思う今日このごろ。自分を見ても、生徒達を見ても、いつでも今が出発地点。未来は変えられるんだなあ。ではよりよい未来に向かって歩いて行きましょう。

池澤由美

「一人で悩まず力を借りる」ことの大切さ、そのお陰で「道が開ける」ことの喜びを感じた一年間でした。支援部が皆さんにとってそのような存在になれるよう頑張りたいと思います。

近藤晶子

